

北海道山紀行・2008 行動日誌

序章

昨年（2007年）に続いて今年（2008年）も北海道の山紀行を行った。

昨年 天候やスケジュールなどの諸事情で登れなかった山に再度挑戦する事と、今度は北海道のマイナーな山にも登ってみようと思って計画した。

昨年は花の多い6月から7月にかけて出かけたが、今年は8月1日にどうしてもやらなければならない仕事が入ってしまったので、花の時期には遅すぎて、ただ登るだけの山旅になってしまったが8月4日から約一ヶ月の予定で計画した。

昨年は「道の駅泊り」だけでなく途中で何泊かは民宿に予約をとり、また人と会う約束など計画の中にあらかじめ予約の日を設定した。そのため計画通りの日程で行動しなかったため、日程的に制約されてしまい、雨が降ったり、時間に余裕が無かったりして登るのをあきらめた山があった。さらに民宿代が結構高く費用も嵩んでしまった。

今年は大体のコースを決めただけで、何処へいつ行くかは殆ど計画なしで出かけた。そのため天気の良い場所と日を選んで移動し、いつも晴れた山に登ることが出来たし、ほとんど車の中で寝泊りしたのでかなり安く上げることができた。

●事前準備：昨年と同じく愛車RAV4に寝泊まりしながら回るため、今年には昨年の経験からより居住性が良くなるように車内を改造した。ベッドスペースを一段高くして広く取ることで 就寝性が格段に向上したし、ベッドの下に収納スペースが確保出来た。約一ヶ月の北海道滞在中ほとんど車中泊だったが、なかなか快適な旅だった。今回の旅行中にも色々改良したいところが出てきたので、来年は更に快適なベッドメイキングをしたいと計画 중이다。



車内にベッドスペースを確保

●さあ出発だ！8月3日の夜中に新潟に向けて家を出た。夜中に出発した理由は、フェリーが明朝10時新潟港を出るので、朝8時頃には新潟港に着いていなければならないことと、相模湖ICから新潟亀田ICまでの高速道路の利用がETCの深夜割引で4割引きになるためだ。

8月2日(土) 晴 蒸し暑い

- 朝から車の整備に入る。
 - ・椅子の除去
 - ・ベッドメイク、
 - ・棚、バーの取り付け など

8月3日(日) 晴

- 所持品の準備
 - ・パソコン、カメラ、登山用具、工具類、食器類、その他
- 22時20分 出発
- 23時10分 相模湖ICを入り圏央道経由で新潟へ向かう。
(途中 狭山SA、上里SA、赤城高原SA、大和SA、栄SAで休息、仮眠)

8月4日(月) 新潟港 朝フェリー発 小樽へ向かう 晴

- 朝 新潟港を出港したフェリーは一路小樽港を目指して終日日本海を快走。
 - ・早朝4時頃 長岡から燕あたりでしのつく雨 栄SAで休憩中に雨は明かった。新潟亀田ICを5時過ぎに出て新潟港山の下埠頭へ向かう。
車は殆ど走っていない。途中でやっとコンビニ(ローソン)を見つけ、牛乳・サンドイッチ・三色弁当・梅おにぎりを購入。6時前に新潟港の新日本海フェリー埠頭に付き小樽向け乗車待ちの列に並ぶ。まだ早いので先頭から4台目。小雨が降っている。
 - ・6時過ぎに朋子に電話(モーニングコール)をかけたが、もう起きていた。珍しい!
 - ・7時に乗船受付開始。レストランで朝食でもと思ったが、7時半オープンということなので、今朝ローソンで買ってきた昼食用の、牛乳とサンドイッチで朝食をとった。昼食は船の中うどんとか何か軽食があるはずだ。
 - ・乗船開始は9時半からなので、それまでワンセグを見たり(よくみえる!)横になったりで退屈な時を過ごす。外はどんより曇って風が強いが涼しくてよかった。
 - ・9時半乗船開始。船は「ゆうかり」、でかい船だ。昨年の失敗を繰り返さないように必要な食料や身の回り品を担いで車を降りる。寝床は2等寝台 K-119。夏休みだというのにあまり混んでいない、2段ベッド部屋の上段はすべて空だ。
 - ・出港予定は10時半、出港までまだ時間が十分あるので、風呂に入って昨夜から徹夜で走ってきた疲れを癒した。広い風呂に数人、ゆっくりと入り気持ち良かった。風呂からあがると出港時刻の10時半、船は岸壁から静かに離れ、関係者が手を振って見送りしている。風呂上がりのビールを片手に旅の始まりを感慨深く思う。



新潟港：フェリー「ゆうかり」

- 船内を一通り歩いて調べた。かなり大きな船だ。レストラン、スナック、グリルと食事については高価なものから手頃なものまで豊富に用意されている。
- 11時過ぎ、ビールとビーフカレーで昼食をとり良い心地でベッドに横になって熟睡。
3時過ぎに目を覚ますと船は快晴の日本海・男鹿半島沖を快走中。右手に遠く鳥海山が眺められる。



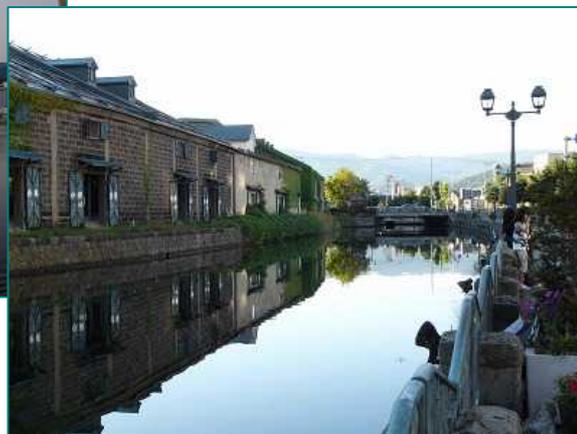
8月5日（火） 早朝 小樽港着 三笠へ 快晴

○小樽天狗山に寄ってから、明日から始まる山紀行にそなえて三笠に向かう。

- 4時20分に予定通りまだ明けやらぬ小樽港に接岸。4時40分 下船。



快晴の小樽に下り立ち 今年の北海道の始まりをむかえた。



- まずターミナルで朝の支度をしてから思い出多い小樽の運河へ向かった。

まだ早朝のため車は殆ど走っていない。路地に車を止め静かな運河を散策する。

- 時間がありすぎるので天狗山へ行ってみることにした。ロープウエー駅へ行かず裏側の道を登ると山頂近くまで車で行ける。下からスキーのストックを両手に登ってきたおじさんにお会いした。スキー関連団体の役員とかでトレーニング中という。ここ天狗山のことや、前に見える旭展望台への行き方などいろいろ教えてもらった。小樽の街を眼下に見ながら天狗山の遊歩道を約20分歩いて一周。天狗の鼻をなでて元気をもらった。



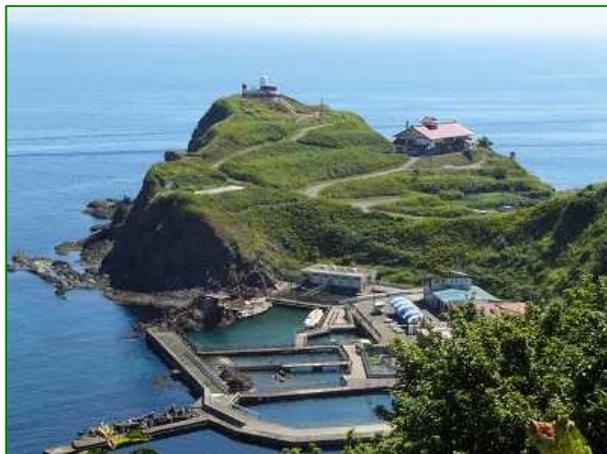
鼻なで天狗

- ・ おじさんに教えてもらった道を通って、小林多喜二の碑を見、旭展望台で小樽の街を見下ろしながらパンの朝食。小樽市街へ下ったがまだ朝8時だ。旭展望台で会ったおばさんに「祝津へ行くと魚も旨いし良いよ」と云われたので祝津方面へ向かった。どん詰まりに「鯨番屋」と「灯台」のための有料駐車場がある。途中に「県営の無料駐車場」があるとの標識があったので、駐車場のおじさんに



小林多喜二の碑

聞いたが教えてくれない。よく見るとこの有料駐車場の入口の横に車一台やっと通れるほどのせまい道があったのでそこに進入してしばらく行くと、なんと広い市営の無料駐車場広場があった。



鯨番屋は有料（300 円）なので外から眺め、突先にある灯台から穏やかに真っ青な石狩湾を眺めてきた。

← 鯨番屋と灯台

- ・ 小樽市街へ戻り長崎屋の駐車場に車を止め、夏でも涼しい北海道なのとうっかり忘れてきた「長袖のシャツ」を購入し、無料駐車時間を利用して再び小樽運河へ出かけた。さすが昼間は大勢の観光客でいっぱい。昔朋子と二人で来た時泊まった運河の前のホテルは名前が変わっていて、フロントのお姉さんに聞いたが以前のことは全く知らなかった。夜の運河を見下ろしながらコーヒーを飲んだ思いで深い最上階のバーランジも今は客室になっているという。



今はソニアホテルに改名

- ・ 12時前に小樽を出て今日の宿泊予定地「三笠」へ向かった。一般道なのに道は広く車は少なくのんびりとドライブを楽しみ 14時半に「道の駅・三笠」に到着した。ここは北海道で一番はじめに出来た道の駅で、国道に面した街中にあるがなかなか趣のある駅である。駐車場も広く、大型のトレーラーなども止まっている。



道の駅「三笠」

ただ残念ながら風呂の設備がない。隣に新しく高級な日帰り入浴施設が出来ているが、われわれ貧乏人を相手にしていないような門構えなので敬遠した。パソコンを取り出して、出発から今まで撮り溜めてきた写真を取り込み、ナビで近くの温泉を検索すると 14km 戻ったところの岩見沢温泉しかなさそう。仕方なく国道を岩見沢温泉に向けて走るとすぐに「いいゆだな」の看板が目飛び

込んだ。とにかく寄ってみるとなんと「銭湯」

で 390 円也。設備はやや汚いが日帰り温泉並で、安いし近いし申し分ない。道の駅「三

笠」に戻って、駐車場の奥の方の公園に面したところに今夜の寝場所を決め夕食開始。まだ5時過ぎで西日が暑い。インスタントのサッポロラーメンにコンビニで買ってきた野菜炒めをたっぷり入れ、これもコンビニで買ってきたおつまみとビールで初日の無事を祝って乾杯。フェリーで買ってきたワンカップ酒も入っていい気分。



この旅で最初の宿泊地「三笠」

7時過ぎに就寝。昼間喧噪な道の駅も夜中は殆ど車が居なくなりまことに静か。前の国道を走る車の音が時々聞こえる。

8月6日(水) 神居尻山 晴

○今回の山紀行最初の山「神居尻山」に登ってから道の駅「田園の里うりゅう」へ。

・朝4時に起床、外は快晴だ！ 歯を磨きミックスサンドと牛乳、トマトで朝食をとり、ゆっくり支度をしてから6時に雨竜沼湿原に向けて「三笠」をあとにする。何も走っていない早朝のすばらしい真っ直ぐな舗装道路を快調に走り、道民の森・神居尻地区へ7時に到着した。途中道の両側に黄色い花が一面に咲いていて実にきれい、と思ったらこれがすべてオオハンゴンソウだ！ これは驚きだ、我々が今箱根で必死に絶滅活動をしているオオハンゴンソウがここでは一面に繁茂している。完全に手遅れだ！・・・

(その後回った北海道のどこにでもこのオオハンゴンソウが咲いていた。神奈川県箱根、栃木県日光で絶滅運動をしている「特定外来生物・オオハンゴンソウ」を北海道はどのように対処しようとしているのだろうか)

- ・道民の森の開園は9時頃というのに、管理棟にいたおじさんが親切に登山道を説明してくれた。7:25 登山開始。Bコースから登りにつく。天気は良好だが早朝のためかなり涼しい。丹沢の馬鹿尾根を思わせる木階段の急坂、気温がどんどん上がって全身汗でびしょり、メチャバテ！



登山口駐車場

8:45 やっと尾根に出た、期待した花はちらほらだが天望は良好。明日登る予定の

暑寒別岳がよく見える。9:30 Cコースとの分岐、天望が一段と開け大変気持ち良いが炎天の暑さで汗まみれだ。ここから頂上までは右側が切り立った標高差 100m 位の痩せ尾根を登る。花が結構咲いていて風も涼しく気持ちの良い登りだ。

- ・10:13 山頂に到着。誰一人いない静かな山頂で 360 度の天望を独り占め。若干早いけど昼飯をとり、方位盤の上に寝ころんで昼寝。真夏の太陽がじりじり照りつけるが風がさわやかで気持ちが良い。11:00 に下山開始、汗まみれでひたすら下りAコース登山口の



神居尻山山頂



駐車場までちょうど2時間、13時に付いた。気温はそれほど高くないだろうが日差しが刺すように暑い。汗だらけの着衣を全部着替え、汗の滴る下着類をトイレの洗面所で水洗い、車内にぶら下げて乾かしながら、14:00 本日の宿泊予定地の雨竜を目指して出発した。

- ・まだ時間が早いし雨竜は近いのでゆっくりと走る、例によって完全舗装の広くて良い道だ。15時過ぎに道の駅「田園の里うりゅう」に到着。広い駐車場にきれいで立派な駅舎が建ち、中を覗くと明日行く予定の雨竜沼湿原の展示コーナーがあり宣伝に力を入れている。
- ・今日は大汗をかいたし外はガンガンの日当たりでメチャ暑い。風呂へ入りたいがこの駅には風呂が無い。あらかじめ調べておいた2km離れたところにある「いきいき館」の風呂へ入りに行く。入湯料 400 円で結構良い風呂だった。道の駅へ戻る途中のコンビニ「セイコマート」で、これからの道中車内用の菓子、今晚の晩飯用の和風ハンバーグと焼きそば、明朝食用のサンドイッチと牛乳、明日の山用のおにぎり3個とチョコスナックを購入、これから一月ほどお世話になるセイコマートのポイントカードを作った。買い物代しめて 1854 円也。駅へ戻ってもまだ日差しが暑いのでエアコンをつけながら車

内で、今日の行程の整理、金計算、写真のパソコンへの取り込みなどしてから、夕食に入る。現在6時14分、この日記を書いている。日もだいぶ沈んできて急に涼しくなってきた。ビールも効いてきたし明日の南暑寒岳は早いのでそろそろ寝るか。

- 運転席を前にスライドさせベッドメイキング、7時前に横になる。

隣に神戸ナンバーの変な親父のアルファードが止まっている。小林からメールがきた。

8月7日(木) 南暑寒岳 快晴

○今日は 雨竜沼湿原を通して「南暑寒岳」に登ってから道の駅「サンフラワー北竜」へ。

- 4時起床。一面ガスが立ちこめている。メグミルク、サンドイッチ、キュウリとコーヒーで朝食をすませる。

- 出るときから感じていた首の痛みがだんだん強くなり、運転はおろか昨夜寝るのも不自由を感じるほどだった。と言うことで昨夜寝ながら考えた、今日は予定通り南暑寒岳へ登り、明日8日は金曜日の平日なので予定を急遽変更して旭川の病院へ行くことにしよう。

予定していた利尻島は昨年も行ったし、

花の季節も過ぎているし、高い金と3日も使ってゆく必要ない、取りやめることにした。

- 6時前に雨竜沼湿原・南暑寒岳を目指して道の駅を出発。初めのうちは真っ直ぐですばらしい舗装道路、道の両側には真っ黄色なオオハンゴンソウが満開、いったいここはどうなっているのか！我々が箱根で必死で駆除しているオオハンゴンソウが我が物顔ではびこっている。道は途中から砂利道に変わり、霧はすっかり晴れ渡り雲一つない夏の青空の下砂埃を巻き上げながら快調に走る。6:30 南暑寒荘に到着、すでに10台余の車が来ている。登山届けを提出していざ出発。(7:00)

- 左の靴が踝にあたり痛い、取り替えに戻ろうかとも思ったが、紐を緩くしてそのまま歩いた。雨竜沼湿原はすぐかと思ったが、強烈な太陽の下300mも急坂を登らされ全身汗びっしょり、木陰で休んで短パンに履き替えた。

- 雨竜沼湿原はすばらしい！ 南暑寒岳・暑寒別岳を眼前に見て広大に広がる。8月に入っているので湿原植物はもう殆どない、タチギボウシ、サワギキョウ、ウメバチソウ、ワレモコウ・・・が咲いている。快晴の下全く木陰はないが爽やかな湿原を突切り南暑寒岳の登山口へ。石がごろごろした道や、笹を切り開いてよく整備された登山道を登ること1時間余、南暑寒岳の山頂に立った(11:00)。昨年の礼文岳を思い起こすような道と暑さだった。



道の駅「田園の里うりゅう」





- ・山頂には誰一人いない、360度の天望を独り占めだ。暑寒別岳への道が延々と続いているのが見える、来年は暑寒別岳へ登ってみようか。振り返ると今歩いて来た雨竜沼湿原が眼下に広がる。ゆっくりと昼食をとり 11:30 に下山開始。



途中にはシマリスが

まだ真夏の太陽は頭の上から強烈な照射を浴びせている。登山届けの控えをポストに入れて、朝未払いだった入山料 500 円を払ってから、キャンプ場の水道を拝借して、シャツ、パンツ、靴下の洗濯をする。なにしろ日差しが暑くてたまらない。

- ・車内に洗濯物をぶら下げて今日の宿泊予定地、道の駅「サンフラワー北竜」へと向かう。砂が舞い上がる未舗装道路、前を走る車（CRV）に追いついたが巻き上げる砂埃には閉口した。途中砂埃がおさまるまでしばらく休んで間隔をおいてから再出発。完全舗装路に入ってから快適なドライブ。道の駅「サンフラワー北竜」に 16:00 過ぎに到着、まだまだ暑い。



南暑寒岳山頂

- ・帰り道の雨竜沼湿原は一方通行の別ルートで横切り、標高差 300mの急坂を一気に下り、南暑寒荘の駐車場へ 14:00 過ぎに到着した。



道の駅「サンフラワー北竜」

- 道の駅「サンフラワー北竜」は竜をかたどった立派な門をくぐると、広い駐車場の奥におとぎの国にあるような可愛くてきれいな建物が建ちホテルも隣接している。建物の日陰に車を止めてトイレから水を汲んできて砂埃の車を洗車する。隣には八王子ナンバーの Vits が止まっていて、太った青年が可愛い子犬を連れて一人（二人？）で全国の旅をしているとか。こんなに小さな車でこんなに大きな人間がよく生活しているものだ、おまけに子犬の世話までして。北海道には本当にいろんな人がいる。
- 今日の行動記録とパソコンへの写真の取り込みを済ませると一段落。日が大分陰ってきて急に涼しく寒いくらい。車を移動させて寝床をセットする。明日は山も移動も止めて旭川の病院にしたので、今夜は道の駅「サンフラワー北竜」の風呂とレストランで豪勢な時を作ろうと。この駅はホテルも併設なのでレストランは夜8時までやっている。
- 500円払ってゆっくりと温泉で疲れをとり、レストランに移ってまず生ビール、結構人が入っていて満席に近い。鳥の唐揚げは二人分くらいのボリュームがあり旨かった。生ビールを駆けつけ2杯。メインは野菜カレー、これもボリュームたっぷりで旨いが食べきれない。唐揚げ2個、カレーを少し残して晚餐終了。
- この駅には蚊がいる！ ドアをちょっと開けるともう蚊が入り込む。蚊取り線香を炊いて寝に入る。首の痛みは相変わらずだが、酔いと疲れが勝って熟睡した。